

令和2年度 初任者研修について



YAMANASHI PREFECTURAL
EDUCATION CENTER

山梨県総合教育センター

初任者研修の弾力的実施について（通知） 平成30年6月26日（30文科初第493号）

記

1 校内研修の実施時間及び校外研修の実施日数の弾力的設定

初任者研修における研修時間・日数の目安としては、従前、文部科学省より、校内研修については週10時間以上、年間300時間以上、校外研修については年間25日間以上等を都道府県教育委員会等に対して会議等で周知して会議等で周知してきたところである。

このことについて、各地域における初任者研修を含めた若手教員に対する研修全体の実施状況等を踏まえ、初任者研修の校内研修の実施時間及び校外研修の実施日数を弾力的に設定することが考えられること。

1. 初任者研修時間の弾力的実施の目的

(1) 若年期教員の資質能力向上に向けた育成の充実

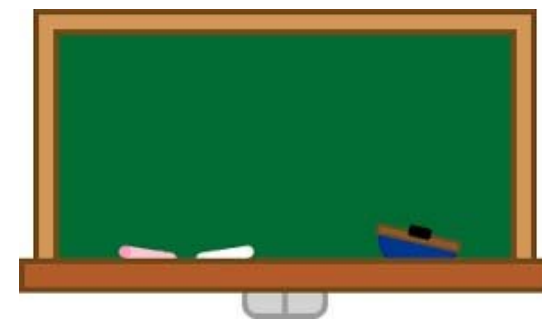
① 校内研修時間，校外研修日数の弾力的設定

② 「ソフォモア研修」による第1ステージ研修の体系化

(2) 初任者の背景に応じた個別的対応

① 教職大学院修了者の一部研修免除

② 期間採用等経験者の一部研修免除



2. R2年度の初任者研修について

(1) **校外研修**について

→ **19日**に（重複内容を整理）

(2) 所属校における**校内研修**

年間300時間以上（週10時間以上）

→ **年間240時間**以上（**週8時間**以上）に

○「**示範**」「**参観**」「**講義**」の直接指導

R1まで 180時間程度（週6時間程度）

R2 **120時間程度（週4時間程度）**

○「**準備まとめ**」の時間

R1まで 120時間程度（週4時間程度）

R2 **120時間程度（週4時間程度）**

これまでの校内研修時間から「**弾力的実施**」とする
60時間＝週2時間分はOJTの時間として、週の中で柔軟に活用する（時間割に示さない・報告等は不必要） 5

《留意点》

「**初任者の研修時間**」 = 「**指導者の指導時間**」

つまり

「**準備まとめ**」の時間も「**初任者の研修時間**」



初任者は**直接研修が4時間**でも、拠点校指導教員が6時間、校内指導教員が2時間指導をしていれば**初任者の研修時間（指導時間）は8時間**

【R元年度例】初任者**6h**研修でも**10h**の指導時間（拠点校：7h 校内：3h）

小学校では **研修13h**（指導時間は**15h**） = 準備まとめ2h の例も
（ →月~木の1~放 = 35時間枠の 34時間枠が埋まる ）

中学校では **研修16h**（指導時間は**19h**） = 準備まとめ3h の例も **6**

3. R2年度 240時間以上の 研修の具体的方法について

教科研修：週**4時間程度** 120時間程度

一般研修：週**4時間程度** 120時間程度

※それぞれ「準備まとめ」の時間を含む

※「**示範**」「**参観**」は 「**教科研修**」「**一般研修**」の
両方とも行うこと（例：「示範or参観」の時間）

R2年度 指導教員の指導時間について

《 拠点校方式 》

拠点校指導教員・・・週1日で**6時間以上**

(年間180時間以上)

校内指導教員・・・週**2時間以上** (年間 60時間以上)

《 従来方式 》

校内指導教員・・・週**8時間以上** (年間240時間以上)

※すべて「準備まとめ」の時間を含む

4. 注意点

※ 「**教科**研修」＝小学校では各教科、

中学校では初任者の担当教科を行う

（初任者の担当教科は、**採用・免許教科のみ**）

【例】初任者研修は免許教科

＝中学校では国語で採用の初任者が、（授業を受け持つことはあっても）一年間を通じて家庭科の時間を教科研修時間とはできない（通年でなければ、指導教員が家庭科で示範授業を行う場合はある）

※総合的な学習の時間・学級活動・**道徳科**＝「**一般**研修」

※小の「**外国語科**」＝「**教科**研修」

※小の「**外国語活動**」＝「**一般**研修」

5. 【 R2年度 研修240時間以上の時間割例 】

初任者の研修時間は 週 拠6 + 校2 = 8時間以上

○初任者 **240h以上 = 週4h以上** (直接指導)

○拠点校指導教員 **180h以上 = 週6h以上**

(例：直接3以上 準備3程度)

○校内指導教員 **60h以上 = 週2h以上**

(例：直接1以上 準備1程度)

拠点校方式の場合の後補充非常勤講師について

【確認事項】＝R2年度もこれまでと同様

① **1日7時間で、校外研修15日分**



② センターでの授業日の研修＝9日

実習校での半日研修5日 ＝2.5日

＝ **11.5日 < 15日**（異校種参観＋0.5日にも対応可能）

※授業の前後1時間は「準備まとめ」の時間が認められる

2. 3校時に授業がある場合の例：**【準】・【授】・【授】・【準】**

2. 4校時に授業がある場合の例：**【準】・【授】・【準】・【授】・【準】**

従来方式の場合の非常勤講師について

【確認事項】＝R2年度もこれまでと同様

①従来方式の学校は0. 5加配
＝**週21時間**以内

②従来方式の非常勤講師が**再任用**の場合は
週19時間35分以内



教職大学院修了者等に対する個別的対応

(初任者研修の弾力的実施について (通知) 30 文科初第 493 号 平成 30 年 6 月 26 日)

(1) 教職大学院修了者について、当該教職大学院における学修の成果を踏まえ、初任者研修の実施に当たり、一般の初任者が受ける内容の一部を実施しない、又は一般の初任者が受ける内容よりも高度な研修を実施するなどの対応が考えられること。

(2) 採用前に臨時的に任用された講師等としての勤務経験を有する者について、当該講師等としての勤務期間において受けた研修等の成果を踏まえ、初任者研修の実施に当たり、一般の初任者が受ける内容の一部を実施しないなどの対応が考えられること。このことに関連して、必要に応じ、臨時的に任用された講師等に対する研修の充実についても併せて検討していただきたいこと。

(3) いわゆる「教師養成塾」など、採用前の者に対して計画的に行われる、教員としての資質能力の向上を図るための取組における学びの成果を踏まえ、当該学びを行った者について、初任者研修の実施に当たり、一般の初任者が受ける内容の一部を実施しないなどの対応が考えられること。その際、上記のような入職前の学びへの参加は当然に受講者の任意によるべきものであり、義務的なものと受け取られることのないよう留意すること。

6. 初任者の経験に応じた個別的対応(一部免除)について

採用前の経験等を活かした個別的対応



- ① 教職大学院修了者に対する「一部免除」
- ② 期間採用等経験者に対する「一部免除」



初任者の教員としての成長を支援するため
「OJTの時間として活用する」

「期間採用等経験者に対する一部免除」の 対象者について

令和2年度の初任者の場合

平成27年4月1日以降、

「山梨県の公立学校の小・中・高・特別支援学校の臨時的任用教職員（**期間採用教員・代替教員**）として、令和2年3月31日現在で**採用と同じ校種において通算3年以上**の勤務経験がある者」とする。

期間の計算にあっては、**358日以上を1年**とする。

「免除となる時間」「免除となる日数」

(一般の初任者に比べて、
所属校でより多く児童生徒と関わる時間に活用)

①教職大学院修了者に対する一部免除

校内研修時間 60hの免除 (週2hの免除)

校外研修日数 4日の免除

②期間採用等経験者に対する一部免除

校内研修時間 120hの免除 (週4hの免除)

校外研修日数 6日の免除

①教職大学院修了者に対する一部免除について
(緑色のOJT = 個に応じた弾力化)

初任者 **180h** (実質週3h) + **OJT1h**

拠点校指導教員 **150h = 週5h** + **OJT1h**

校内指導教員 **30h = 週1h** + **OJT1h**

(従来方式は校内指導教員が**180h = 週6h** + **OJT2h**)

②期間採用等経験者に対する一部免除について (緑色のOJT=個に応じた弾力化)

初任者 **120h** (実質週3h) + **OJT1h**

拠点校指導教員 **90h=週3h** + **OJT3h**

校内指導教員 **30h=週1h** + **OJT1h**

または

拠点校指導教員 **120h=週4h** + **OJT2h**

校内指導教員 **0h=週0h** + **OJT2h**

※2人あわせて4h

(従来方式は校内指導教員が**120h=週4h** + **OJT4h**)

7. 初任者の経験に応じた個別対応の考え方 → 「一部免除時間」の活用

採用前経験を**指導に反映**する

「免除時間」「免除日数」については、「**指定研修の免除**」と捉え、
いずれも「個々の初任者や学校の実情に合わせ、学校での日々の研修
時間（OJT）を充実させる」ことを目的として**各学校内で活用する**

※具体的には以下の2点などが考えられる

- ①採用前の個々の経験から鑑みて**補強が必要と思われる分野**の研修
- ②**さらに専門性を高める**研修

※「免除」時間に行った研修等については、年度末に「**所属校における指導
報告書**」に**簡潔に記載する**（計画書や時間ごとの記録は不要）

R2 免除対象者の時間割モデル一覧（標準の形を、免除によって変える＝横並びの時数はどれも同じ）

（ 緑色のOJT = 個に応じた弾力化 ）

【研修時間240時間以上の時間割例標準】						【教職大学院修了者180時間以上の時間割例】						【期間採用等経験者120時間以上の時間割例】					
初任者						初任者						初任者					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1						1						1					
2			般示参			2			般示参			2			般示参		
3			般講義			3			OJT			3			OJT		
4		教示参				4		教示参				4		教示参			
5			教講義			5			教講義			5			教講義		
6						6						6					
放						放						放					
180h = 週6h						150h = 週5h + OJT1h						90h = 週3h + OJT3h					
拠点校指導教員						拠点校指導教員						拠点校指導教員					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1			教準備			1			教準備			1			教準備		
2			般示参			2			般示参			2			般示参		
3			般講義			3			OJT			3			OJT		
4			般準備			4			般準備			4			OJT		
5			教講義			5			教講義			5			教講義		
6			般準備			6			般準備			6			OJT		
放						放						放					
60h = 週2h						30h = 週1h + OJT1h						30h = 週1h + OJT1h					
校内指導教員						校内指導教員						校内指導教員					
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	教準備					1	OJT					1	OJT				
2						2						2					
3						3						3					
4		教示参				4		教示参				4		教示参			
5						5						5					
6						6						6					
放						放						放					

R 2 免除対象者の時間割モデル一覧【最新版】(標準の形を、免除によって変える＝横並びの時数はどれも同じ)
 (緑色のOJT = 個に応じた弾力化)

「初任者」

【研修時間240時間以上の時間割例標準】

初任者

	月	火	水	木	金
1					
2			般示参		
3			般講義		
4					
5			教講義		
6			教示参		
放					

拠点校指導教員

	月	火	水	木	金
1			教準備		
2			般示参		
3			般講義		
4			般準備		
5			教講義		
6			教示参		
放					

180h = 週6h

校内指導教員

	月	火	水	木	金
1	教準備				
2					
3					
4		般準備			
5					
6					
放					

60h = 週2h

「校内指導教員」

【教職大学院修了者180時間以上の時間割例】

初任者

	月	火	水	木	金
1					
2			般示参		
3			OJT		
4					
5			教講義		
6			教示参		
放					

拠点校指導教員

	月	火	水	木	金
1			教準備		
2			般示参		
3			OJT		
4			般準備		
5			教講義		
6			教示参		
放					

150h = 週5h + OJT1h

校内指導教員

	月	火	水	木	金
1	OJT				
2					
3					
4		般準備			
5					
6					
放					

30h = 週1h + OJT1h

【期間採用等経験者120時間以上の時間割例】

初任者

	月	火	水	木	金
1					
2			般示参		
3			OJT		
4					
5			教講義		
6			教示参		
放					

拠点校指導教員

	月	火	水	木	金
1			教準備		
2			般示参		
3			OJT		
4			OJT		
5			教講義		
6			教示参		
放					

120h = 週4h + OJT2h

校内指導教員

	月	火	水	木	金
1	OJT				
2					
3					
4		OJT			
5					
6					
放					

OJT2h

○J Tの時間も初任者の個（必要）に応じて活用を

初任者一般の採用前の個々の経験が様々（新卒者・教職大学院修了者・期間採用等経験者など）なように、**期間採用等経験者の経験内容も様々**
（経験年数や担任の有無等）



○校外研修は 一律 6日免除

○校内研修は ○J Tで柔軟に対応

（※教職大学院修了者の経験はほぼ一律）

※一覧の時間割モデルでは、初任者の**OJT**（緑）と拠点校指導教員の**OJT**（緑）の時間を合わせてある（=水3）ので2人で授業を参観したり、話し合ったりする時間としても活用できる

8. 一部免除時間の活用の具体例 ～OJTとして～

指導教員のOJTの時間は初任者の個に応じて必要な内容を行う

【具体例】（・・・「手引き」にも例を示す）

○様々な校内の授業について、初任者ととともに参観して学ばせる

○集会や行事等に同行してアドバイスをを行う

○二者懇談や三者懇談についての助言を行う

○受講記録やレポートの指導

○先輩教員の、毎日の記録へのコメントや、通信票・指導要録の所見から学べるよう準備する

○他学級や他学年から学べるよう視点を示す、コーディネートする

（教室環境＝掲示物、集会等）

○様々な状況に応じた（生徒指導や保護者）対応の仕方から学べるよう視点を示す

（教師の動き、報告方法、役割分担、他の児童生徒への対応、安全確保の仕方、指導方法＝話し方、事後指導＝家庭連絡） 等

9. その他

- ※弾力的設定に伴い、「要項」「細則」「手引き」
その他提出書類等を改訂する（令和2年4月1日より）
- ※配属される初任者が一部免除者である場合も考えられる
ので拠点校方式の後補充非常勤講師の依頼については
その可能性があることに注意が必要
- ※一部免除者については所属校の学校長より簡易な書式で
「申請書」の提出をお願いすることになる
（「所属校における年間計画書」と同じ日程・ルート）

【 提出書類の期限を、今年度より遅く設定 】

○授業研修会**実習計画書**

(全校種の全初任研対象者に異校種参観の希望調査 → 異校種参観対象授業を後半の授業とする予定)

実習校

→ **4/28(火)教育事務所** → **5/8(金)教育センター**

R元年は4/12(金)

R元年は4/17(水)

○所属校における**年間計画書**および**初任者研修の実施に伴う調査** (※ピーチでもセンターへ)

所属校 → **4/24(金)地教委** → **4/28(火)教育事務所** → **5/8(金)教育センター**

R元年は4/15(月)

R元年は4/19(金)

R元年は4/26(金)

○市町村教育委員会における**年間研修計画**

地教委 → **4/28(火)教育事務所** → **5/8(金)教育センター**

R元年は4/19(金)

R元年は4/26(金)